

# 箕島 1点に泣く

▽第1試合 1回戦(午前10時3分開始)

マツゲン箕島(和歌山)

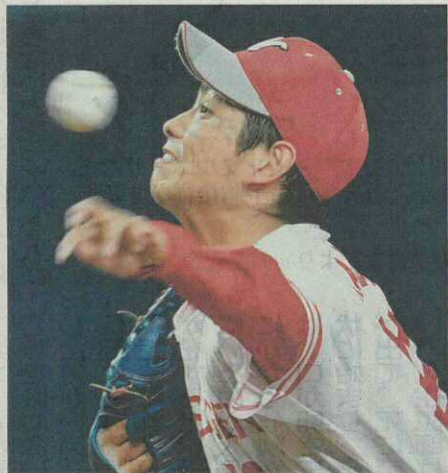
0000 0000 0000 0000  
0100 0000 0000 0000  
10

トヨタ自動車(愛知)

【審判】球審 山村▽塁審 坂本、西岡、乗金

トヨタ自動車が栗林の力投で接戦を制した。最速151km/hの速球を軸に変化球を効果的に使って4安打に抑え、二回に小畑の適時二塁打で奪った1点を完封で守り切った。マツゲン箕島は一回1死一、二塁の好機を生かせず、好投した和田を援護できなかった。

◇毎回奪三振一大会7、8人目 トヨタ自動車の栗林良吏(りょうじ)投手(23)が1回戦のマツゲン箕島戦、三菱自動車岡崎の仲井洋平投手(29)が1回戦のパナソニック戦で達成。第44回大会(2018年)の堀田晃(西濃運輸)以来。



【マツゲン箕島-トヨタ自動車】1失点完投で敗れたマツゲン箕島の和田-猪飼健史撮影

安打	点	打	塁	犠	盗	失	併	残
0	1	4	4	4	4	3	3	2
0	1	4	4	4	4	3	3	2
0	1	4	4	4	4	3	3	2
0	1	4	4	4	4	3	3	2
0	1	4	4	4	4	3	3	2
0	1	4	4	4	4	3	3	2
0	1	4	4	4	4	3	3	2
0	1	4	4	4	4	3	3	2
0	1	4	4	4	4	3	3	2
0	1	4	4	4	4	3	3	2
0	1	4	4	4	4	3	3	2
0	1	4	4	4	4	3	3	2
0	1	4	4	4	4	3	3	2

計 304 0

安打	点	打	塁	犠	盗	失	併	残
0	1	3	3	3	3	3	3	2
0	1	3	3	3	3	3	3	2
0	1	3	3	3	3	3	3	2
0	1	3	3	3	3	3	3	2
0	1	3	3	3	3	3	3	2
0	1	3	3	3	3	3	3	2
0	1	3	3	3	3	3	3	2
0	1	3	3	3	3	3	3	2
0	1	3	3	3	3	3	3	2
0	1	3	3	3	3	3	3	2
0	1	3	3	3	3	3	3	2
0	1	3	3	3	3	3	3	2

計 274 1

振	球	機	盗	失	併	残
13	1	0	0	0	4	0
4	2	1	0	0	5	1
投	和	栗	手	田	林	
			8	9	4	0
▽三	塁	打	八	木	▽	1
二	塁	打	小	畑	▽	1
時	間		5	9		分

## 左腕V候補相手に4安打完投

1点に泣いた。マツゲン箕島の左腕・和田は好投したものの、打線の援護を受けられず、序盤の失点が響いた。「相手打線は威圧感があった。最初は浮足立った」といい、二回2死後に四球を与え、続く小畑に中堅への適時二塁打を浴びた。だが、三回無死三塁のピンチをしのぐと、一球の走りがいい感じだった」とセ

ットポジション投法に変更。スライダの曲がりや球速を微妙に変えて打者のタイミングを外し、4安打完投した。京都学園大(現京都先端科学大)から加入4年目の今季は4月に左肩を痛め、8月に横手投げに改造。「打球に角度がつき、打者が腰を引いたり、打ちにくそうにするようになった」と指摘する。直後

の全日本クラブ選手権で優勝し、最高殊勲選手賞に輝いた。スパーマーケットに勤務し、同じ職場の捕手・中原とは休み時間にもトヨタ自動車打線対策を話し合ってきた。「本当に勝ちたかった。二回の1点が悔しい」。優勝候補相手に大健闘も、チームの大会初勝利はならなかった。

【来住哲司】

マツゲン箕島・西川忠宏監督 和田は緩急をつけてリズム良く投げってくれた。相手投手の直球を狙っていたが、打てずに力の差を感じた。